

2025.12.25

「福島フィールドワーク」(2025 年 11 月 24 日(月)～11 月 26 日(水))に参加した生徒の感想を紹介します。
在校生へのメッセージとして、ぜひお読みください。

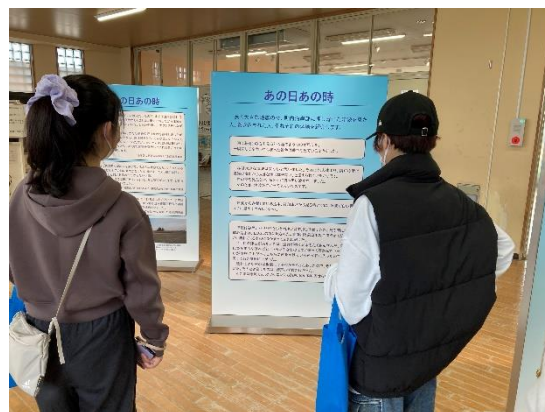
私は福島 FW に参加するのが2回目でした。昨年参加したときに最も印象的だったのは、福島第一原発一号機の姿でした。ぼろぼろの骨組みを見て初めて、こんなに大きな建物が本当に爆発したんだな、と実感しました。教科書に載っている精々4cm 四方の画像では到底感じることのできない衝撃を受けました。そんな一号機は、今年見学した際、見える部分が工事現場のようなパネルで覆われていました。1年経てば作業が進むのは当たり前で、それが廃炉への正しい道のりだと思います。ですが、今の一号機から昨年感じたような大きな感情は湧きあがりませんでした。そのようなことは、これから徐々に増えていくと思います。震災遺構として残されるものもありますが、そうではない廃虚は復興の過程で解体されます。もちろん、段々と復興が進んでいっている状況から学べることも沢山ありますが、去年私が感じたような感情は抱かなくなるかもしれません。そう考えると、震災や原発事故の被害のおぞましさについて、これはまだまだ終わっていない災害なのということについて、福島に行って実感を伴って学ぶことができるタイムリミットは、あと数年なのではないかと思います。今だから学べることがあります。是非来年参加してみてくださいね。



今回のフィールドワークを通して全体の感想としては「無知を思い知らされた」です。事前学習を通して放射線について、当時の人々の様子、東電の軌跡を学んでいったはずだったのに、現地で様々な方のお話を聞き、実際に自分で現地を歩くことでどんどん新たな発見があり、自分はまだ表面からしか学べていなかったのだなと感じました。私は震災から 10 年以上経った福島の現状を知りたい、原発を視察してみたいという動機で今回のフィールドワークへの参加を決意しました。三日間みっちり学ぶことで、福島のことを自分ごととして捉えられるようになっていきました。今回参加をしていなかったらただニュースに踊らされてしまう人になってしまっていたかもしれないと思うと、得たものの大きさを改めて実感し、今度は私が伝えたいなと思います。福島の皆さんから頂いた言葉、受けた熱意を自分の中で終結するのではなく、これからも語り継ぐ意義を学んだ自分から発信していけたらと思いました。三日間あっという間に終わってしまいましたが、先輩との仲も深まり楽しい学びの時間を過ごすことができました。

私は、実際に原子炉を見学して自分が何を感じるのか、当時の人々の感情、また事故から時間が経った今の記憶の伝えられ方、今回参加したような体験学習のあり方に興味があって、参加を決めました。申し込んだ時は、科学の話ばかりだったらどうしようかと思っていましたが、いろんな方のお話を聞いたり、ディスカッションをしたりする時間がたくさんあって、自分のもともにあった疑問を考えることができました。また、知識では知っていても来ないとわからないことがある、というのは、その通りだと思いました。迷ったら、参加するべきだし、迷ってなくてもほんの少しでも興味があったらまず調べてみて、参加してみるといいと思います！

まず自分はあまりにも無知だと思いました。事前学習をしたのに、知らないことと衝撃を受けることばかりで、本当に刺激的な2泊3日でした。是非多くのお茶高生に参加してみたいです。私は、事前学習をしているうちに知りたいことが増えてきて、福島FWに来ると更に知りたいことが増えてきました。また、一緒に来ている仲間と話し合いをして、また新しいことに気づくことができました。このFWでは原発事故に関することや現状、復興のこと以外にも、再生可能エネルギーの技術、自分の未熟さや仲間のすごさを感じることができます！人間として成長する大きな機会になったと思います。冗談抜きで人生変わりました。





福島 FW に参加して実感したのは、福島原発事故がもたらした
ものについて自分達がいかに無知だったかということです。事前学
習で得たのはあくまで当時の知識で、「当時こうだった」と考えてい
たことがまだなお解決できない問題として横たわっていることが衝撃
でした。語り部の方が「岩手や宮城との違いは、建物や街は残って
いるのに人がいないこと、繋がりがなくなってしまうこと」と仰ってい
ましたが、経年劣化と動物が荒らした後が残る家屋や商店、全部水
田だったという一面ススキの景色、朽ちたガソリンスタンドの看板な
ど、人がいなくなった地域はこうになってしまうというのが衝撃でした。
行かないと、見ないと分からない空気感でした。

福島 FW に行ってみて本当に良かったと思っている。自分の知らないことが多すぎて、全てが新しく重いもの
だったと思う。片付いたと思っていた福島には、戻って来れていない人たちがいて、帰って来ないと決まった家
が経年劣化で錆びれていく街並みがあった。校舎には黒板の寄せ書きが残っていて、戻っていないことを実感
した。しかし、そのような状況でも出来ることを考え続けて、前に向かっていく人達がいることも感じる事ができた。
また、福島を様々な面から見ることで、自分の関心や軸を置く部分がはっきりと掴めたと思う。誇張抜きで、
全てが糧になったと思う。

実際に行くことで知ったこと、行かなければ知り得なかったこ
とを多く得られた。人のいない街というのを間近にみた。駅周
辺なのに車も人もおらず、塀だけ残った空き地、蔦の絡まった
家、解体作業中の家、のびきったすすきの田んぼ。全てが違和
感で、なんともいえない物悲しさがあつた。一方で原子力発
電所の中はそれよりもずっと街のようだった。街を作る上で、人
はとても大事なのだと感じさせられた。また、私は福島に行って
原発は必ずしも無くすべきものではないのではないかと考える
ようになった。負の面だけではなく、必要があるからこそ今もあ
るということを感じた。災害、防災、エネルギーについて今もな
お続く問題を過去、当時、現在、そして未来を様々な視点から
見る、有意義な学習だった。



福島フィールドワークに参加して、今まで知らなかった「生」に
たくさん触れ、衝撃を受けました。原発の事故による被害が、
地震や津波による被害とどう異なるのか、それによって現代に
どのような問題が続いているのかということを実際に現地に行っ
て実感しました。まだまだ被害は終わっていないし、決まってい
ないことがたくさんある中で、なぜこのような大きな事故が起き
たのか、事故原因の分析を学び、振り替える勇気が必要だと知
りました。自分の生活にも当てはまる事がたくさんあったので、
この経験を生活に活かし、この福島第一原発の事故について
これからも考え続けて行きたいと思います。また、一緒にいった
仲間と活発に様々な意見交換が出来たことも大きな学びになり
ました。このような貴重なプログラムに参加できてとてもよかったです。
ありがとうございます。



今まで 3.11 の震災や原発事故の話題に触れる機会はあったが、実際に現地に行くことで福島のありのまま
の現状を知ることができ、福島やエネルギー問題について積極的に考える良い機会になった。書籍やテレビだ
けではインプットするだけだが、ディスカッションもあり、アウトプットもすることで自分の考えを持つことができた。
特に原発をどうしていくのかやエネルギー問題は、電気を消費している私たち一人ひとりが自分事として捉えな
くってはならない問題だと感じた。また最初はあまり興味がなかったが、水素や再生可能エネルギーの研究につい
ても学び、水素と再生可能エネルギーの関係や発電の工夫を知って、非常に面白いと感じ興味を持った。

3日間のスケジュール

- 1日目 双葉町・東日本大震災・原子力災害伝承館、双葉町・浪江町フィールド学習 (JR 双葉駅周辺、請戸小
学校、請戸漁港、大平山霊園、道の駅なみえ)、福島水素エネルギー研究フィールド、双葉町産業交流セン
ター 【対話】富岡町 3.11 を語る会、振り返り学習
- 2日目 富岡町・東京電力廃炉資料館、東京電力福島第一原子力発電所構内見学、富岡町・復興メガソーラ
ーSAKURA、link る大熊 【対話】東京電力社員、えこねる南相馬研究機構、振り返り学習
- 3日目 郡山市・産総研福島再生可能エネルギー研究所 まとめのワークショップ